平成22年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ニギス

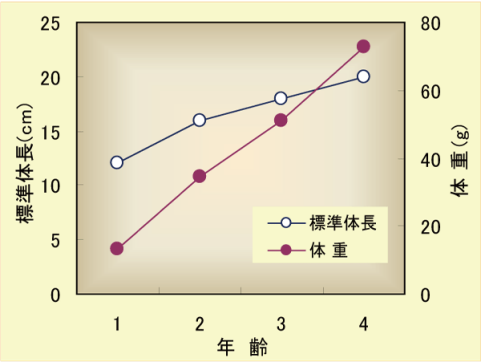
学名　*Glossanodon semifasciatus*

系群名　日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所

生物学的特性

寿命:	不明
成熟開始年齢:	1.5歳
産卵期・産卵場:	周年産卵、産卵のピークは春季と秋季、産卵場は不明
索餌期・索餌場:	周年、水深100～200m
食性:	オキアミなどの浮遊性小型甲殻類
捕食者:	ヒラメ、ソウハチ、ムシガレイ、アカムツ等が報告されているが、詳細は不明

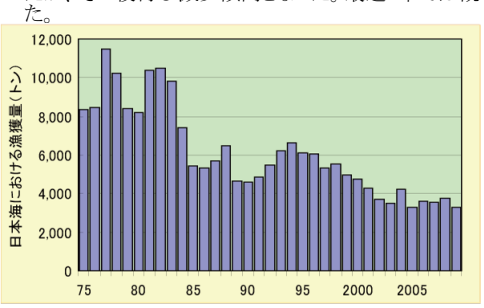


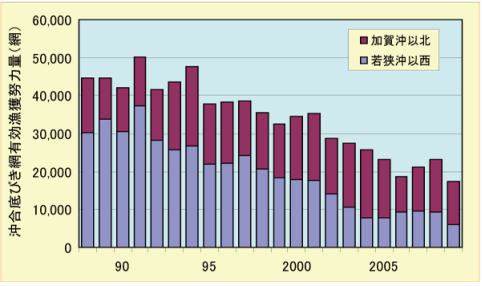
漁業の特徴

本種の主な漁場は青森県～島根県の日本海沿岸と、愛知県および高知県の太平洋沿岸であるが、日本の漁獲量の7～8割が日本海沿岸で水揚げされている。本州沖合の日本海において、本種は水深100～200mに分布しており、主として沖合底びき網（沖底）と小型底びき網（小底）で漁獲されている。日本海では、新潟、石川、兵庫、島根の4県での水揚げが多く、これら4県で日本海側総漁獲量の約9割を占めている。

漁獲の動向

総漁獲量の推移をみると、1975～1983年までは10,000トン前後で推移していたが、1984年以降減少傾向となり、1990年には約4,600トンとなった。1991年以降は増加に転じ、1990年代半ばまでは5,000～6,000トンで推移していたが、その後再び減少傾向となった。最近5年では概ね横ばい傾向にあるが、2009年は過去最低の3,274トンとなった。



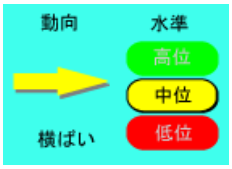


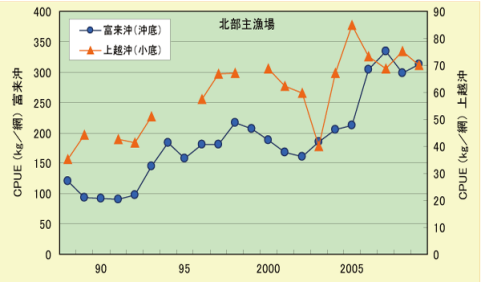
資源評価法

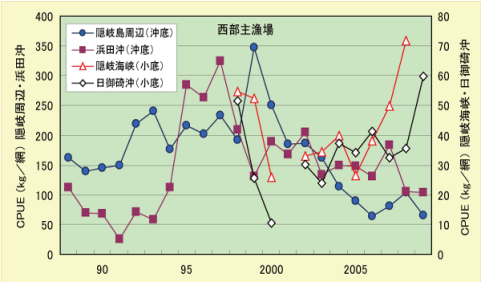
沖合底びき網（1そうびき）の統計値（資源密度指数）を用いて資源評価を行った。なお、ニギス漁は1航海中の限られた日に行われることが多く、従来の集計法ではニギス有漁漁区内におけるニギスを狙わない日の網数も計数され、網数が過大となるため、本年度から、漁獲成績報告書からニギス有漁レコードのみを抽出し、それを月別に集計し資源量指数、有漁漁区数、有効漁獲努力量を算出した。

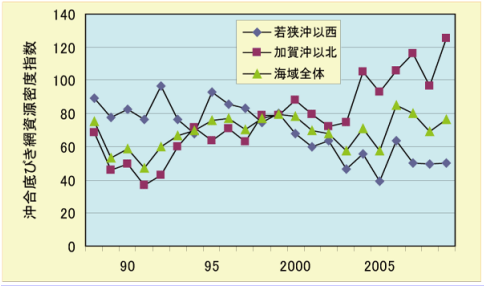
資源状態

海域全体の沖底（1そうびき）の資源密度指数を見ると、近年は中位水準ではあるが比較的高い値を示しており、資源状態は良好であると考えられる。各主漁場を見ると、北部主漁場（新潟、石川）はひと網あたりの漁獲量も良い値を示している。また、加賀沖以北の沖底資源密度指数も高い値を示しており、北部の資源状態は良好であると考えられる。西部主漁場（兵庫、島根）では、一部主漁場で資源状態の悪化が懸念されるが、その他主漁場では資源状態の悪化は見られない。若狭沖以西の沖底資源密度指数も西部海域全体としては中位水準であった。









管理方策

海域全体の沖合底びき網(1そうびき)の資源密度指数を見ると、近年は中位水準ではあるが比較的高い値を示している。また、沖底の有効漁獲努力量も低い値となっていること、主漁場における曳き網回数も過去に比べて減少していることから、漁獲圧は低い状態にあると考えられる。そこで、漁獲圧は現状程度を維持しても、資源状態は悪化しないと判断し、漁獲圧を現状以上にしないことを管理方策とした。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,500トン	1.0Cave3-yr	―	―
ABCtarget	2,800トン	0.8・1.0Cave3-yr	―	―

資源評価のまとめ

- 海域全体では資源状態は悪くなく、漁獲圧も低い状態にある
- 一部主漁場で資源状態の指標値が低下しており、資源状態の悪化が懸念される

管理方策のまとめ

- 海域全体で見ると、現状の漁獲圧でも資源状態を悪化させることはないと判断した
- 一部主漁場で資源状態の指標値が低下しており、今後の状況によっては、海域ごとに漁獲圧の引き下げなどを検討する必要もある

執筆者:廣瀬太郎

資源評価は毎年更新されます。